

ロイヤルレッドの次世代車両

## 西鉄9000形

営業運転開始 2017年  
 営業最高速度 110km/h  
 制御方式 VVVFインバータ制御  
 車内設備 ロングシート

解説/柴田東吾 写真/編集部

取材日/2017年3月18日(筑紫工場) 取材協力/西日本鉄道株式会社



①ガラスを多用した開放的な客室。ロングシートは、1人あたりのスペースが拡張され、快適性が向上した。  
 ②車端部に設置された優先席と車いすスペースの床面は、模様省略され一般部と差別化が図られている。妻仕切扉は全面ガラスのものが使用され開放的だ。  
 ③4か国語に対応する車内案内表示器。側扉上部に液晶の案内表示器が設置されるのは、西鉄初である。  
 ④⑥運転台はT型ワンハンドルマスコン(力行4ノッチ、ブレーキ7ノッチ+非常)が採用され、モニタ装置も搭載されたものの、速度計はアナログの従来式のものを使用される。  
 ⑤中央部に貫通路が設置された運転席の全景。通常、2編成以上が併結されて運転されるため、貫通路としても機能する。  
 ⑦併結運転が基本となるため、前面貫通路は乗客が行き来できる構造となっている。前面扉で運転台を仕切る形だ。  
 ⑧台車は川重製のボルスタレス台車KW161C(動力台車)を履く。軸ハリス軸箱支持装置と密封複式円筒コロ軸受の使用により、従来のボルスタ付き台車より乗り心地と走行性能の向上が図られている。



西鉄は、天神大牟田線の系統で使用される5000形の後継車両として新型の9000形を新造した。西鉄初のステンレス車である3000形をベースに、新デザイン・新技術の導入で安全性・サービス設備・省エネルギー性能の水準を向上させている。

車体はステンレス製で、全長は19.5mと既存の車両の寸法を継承、片側3扉の側面や前面を貫通形とした構造も同じだが、車体色は既存車両の色に似たロイヤルレッドのラインを配置。先頭部は縦のラインを強調することで、既存車両のイメージを継承しながらも、前進する力強さと次世代の車両としての新しさが表現されている。車端部には転落防止幌が設置されたほか、先頭車